

2006年3月期決算説明会

2006年5月12日

株式会社ホロン

JQ7748

Solutions for Mask & Wafer Metrology

INDEX

- 1.2006年3月期のトピックス
- 2.2006年3月期決算の概要
- 3.2007年3月期の業績見通し及び課題と対応

1.2006年3月期のトピックス

2006年3月期のトピックス

- H17.6.14 開発・技術担当常務取締役の新設
- H17.8.5 中間期及び通期の業績下方修正
- H17.8.5 新製品微小寸法測定装置EMU-270、超解像欠陥検査装置DIS-05の発売の発表（発売開始はH17.9から）
- H17.9.1 ジャスダック市場の制度信用銘柄へ選定される
- H18.2.3 通期業績の下方修正
- H18.3.22 通期業績の下方修正

2.2006年3月期決算の概要

当期損益（対予想比）

（単位：百万円）

	修正後	06年3月期	*対予想比	
	予想値	実績	増減額	増減比(%)
売上高	920	974	54	5.9%
経常利益	△ 170	△ 143	27	15.9%
当期純利益	△ 290	△ 260	30	10.3%

*修正後予想値は、2006年3月22日公表数字です。

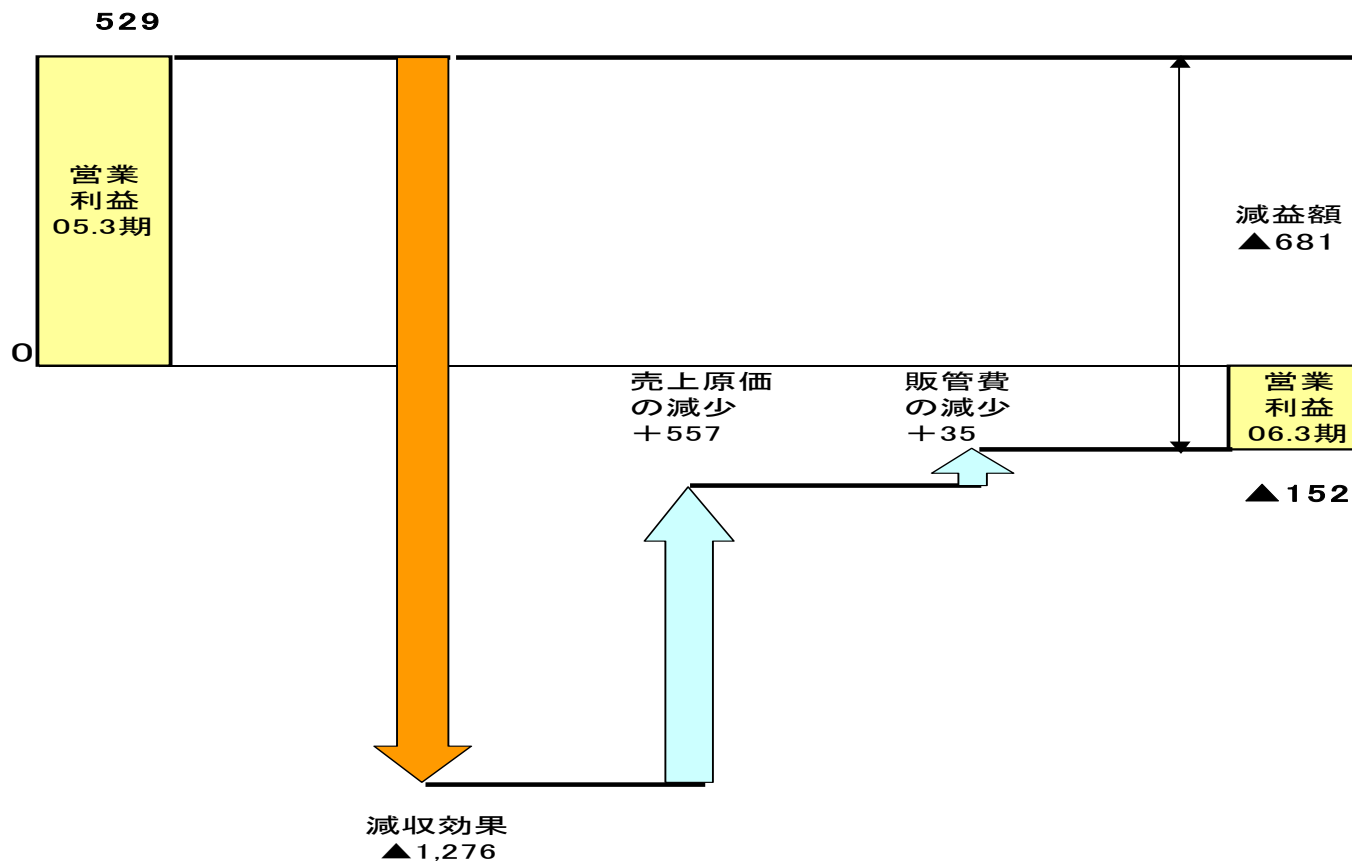
当期損益(対前期比)

(単位:百万円)

	05/3期		06/3期		対前期比	
	金額	百分比(%)	金額	百分比(%)	増減額	増減比(%)
売上高	2,250	100.0%	974	100.0%	△ 1,276	-56.7%
売上総利益	1,153	51.2%	435	44.7%	△ 718	-62.3%
販管費及び一般管理費	623	27.7%	588	60.4%	△ 35	-5.6%
営業利益	529	23.5%	△ 152	-15.7%	△ 681	-128.7%
経常利益	527	23.4%	△ 143	-14.7%	△ 670	-127.1%
当期純利益	334	14.9%	△ 260	-26.7%	△ 594	-177.8%

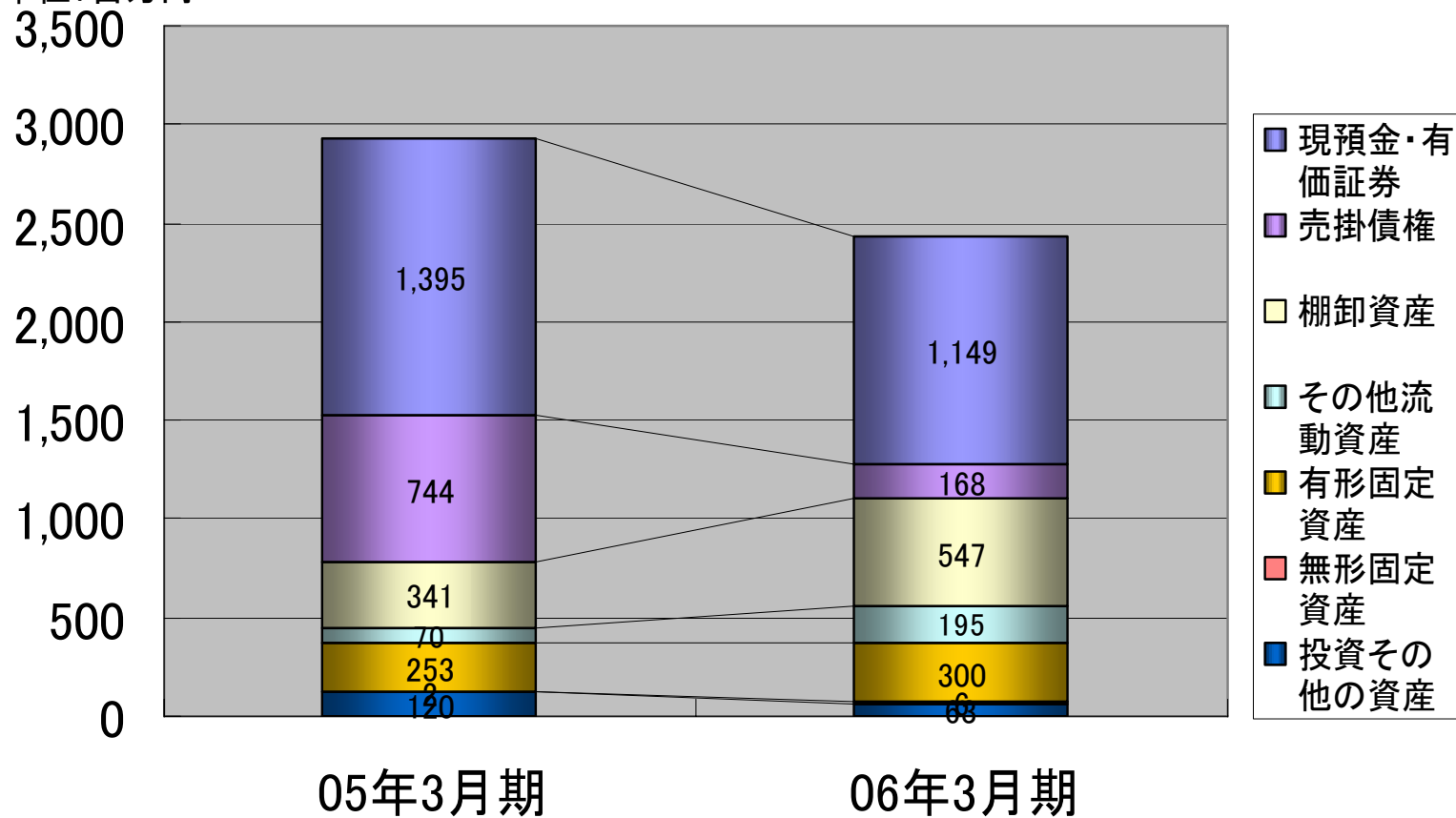
当期営業利益 対前期比増減要因

単位：百万円



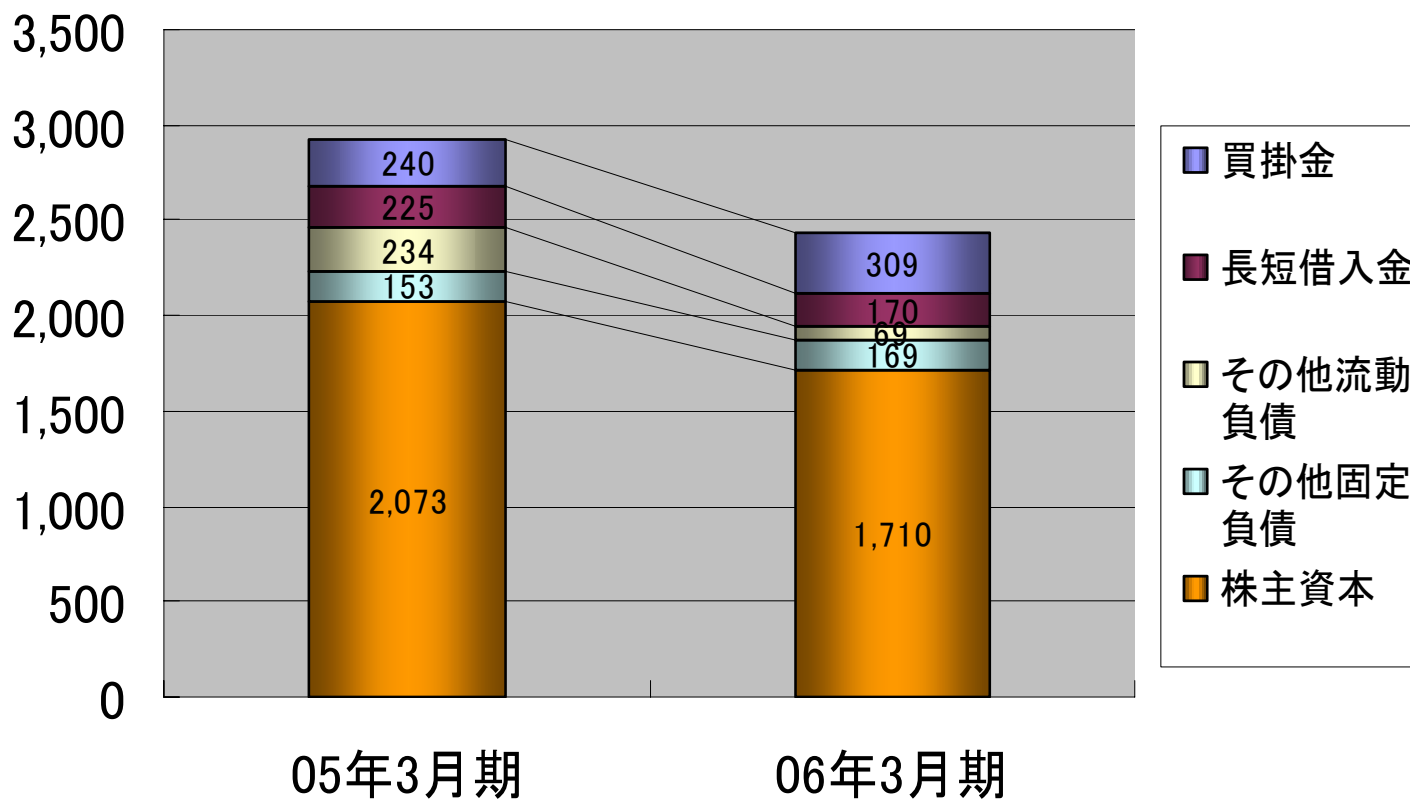
資産の状況

単位: 百万円



負債・資本の状況

単位:百万円



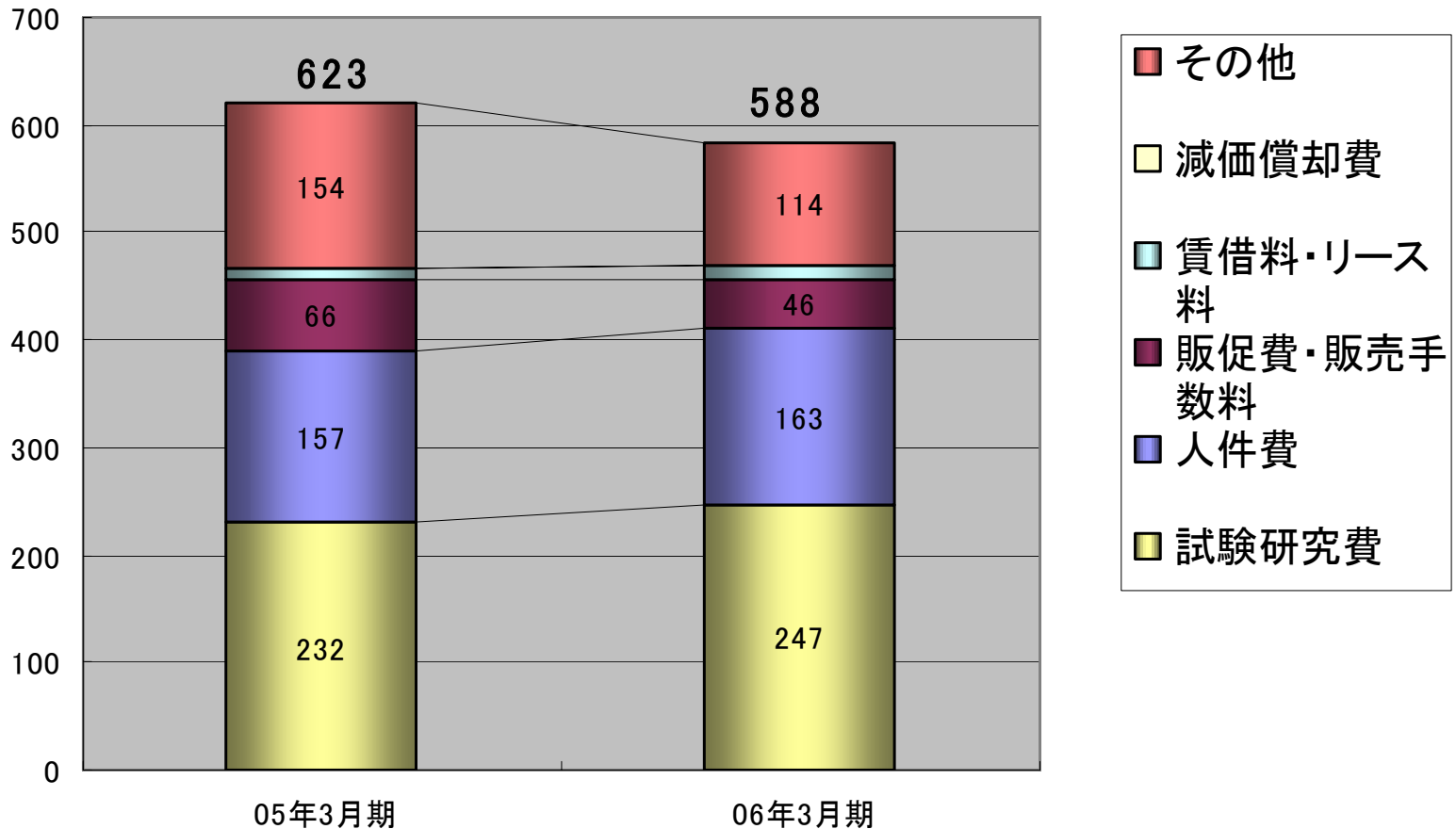
キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

	05年3月期	06年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 382	△ 32	350
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 37	△ 77	△ 40
財務活動によるキャッシュ・フロー	395	△ 139	△ 534
現金及び現金同等物の増加額	△ 22	△ 246	△ 224
現金及び現金同等物の期末残高	1,395	1,149	△ 246

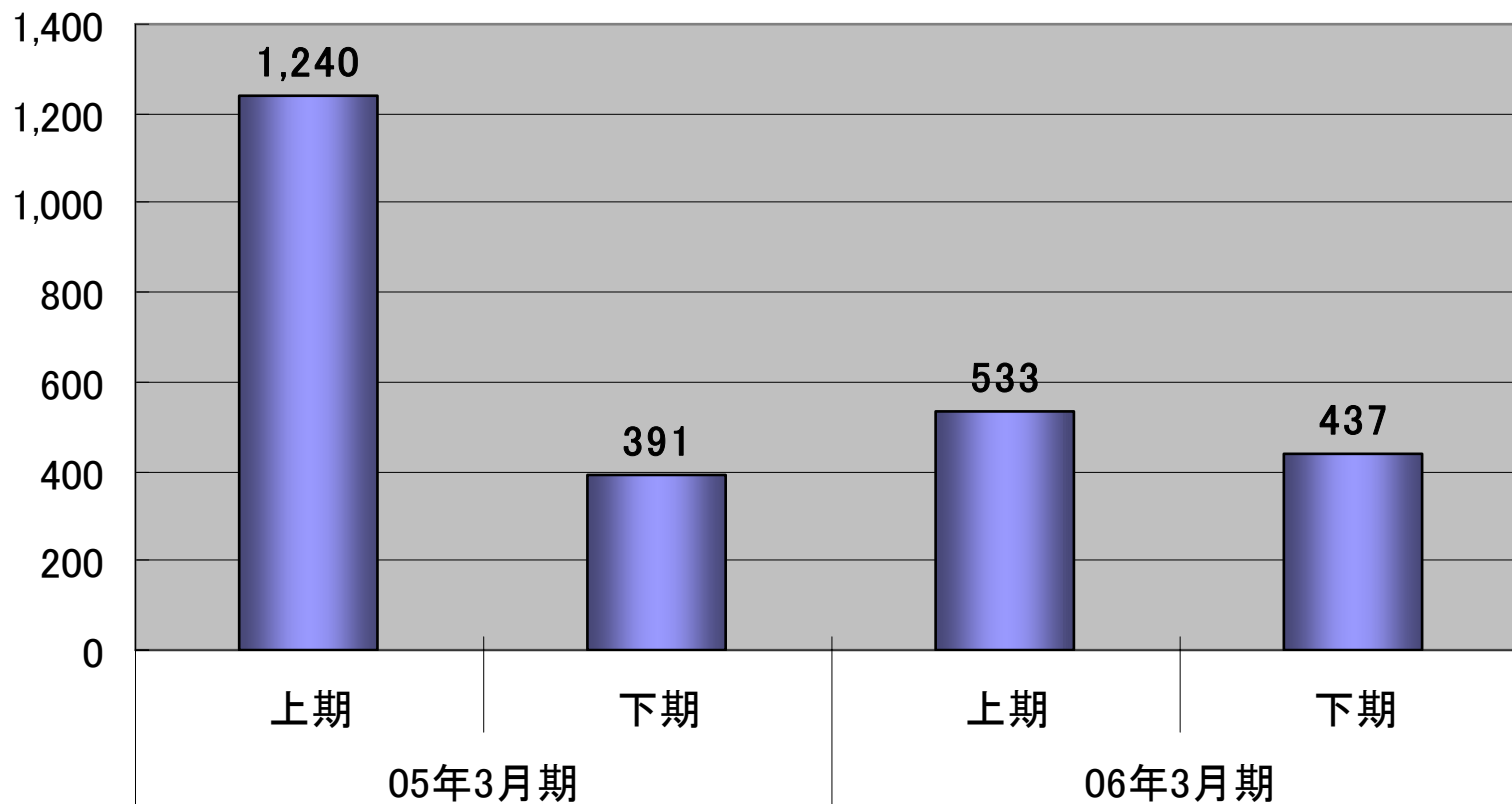
販管費の状況

単位：百万円



受注高の状況

単位: 百万円



3.2007年3月期業績見通し及び課題と対応

業績見通し

(単位:百万円)

	06/3期実績	07/3期予想	増減額	増減率	05/3期
売上高	974	1,520	546	56.1%	2,250
経常利益	△ 143	76	219	-	527
(売上高比)	-14.7%	5.0%			23.4%
当期純利益	△ 260	74	334	-	334
(売上高比)	-26.7%	4.9%			14.9%

今後の課題と対応(1)

1. EMUの競争力回復⇒単年度でのシェア50%回復!

(1) 技術面での現状認識及び今後の対応

①65nmノードにおける性能は、競合会社
比で再現性が劣後、レジスト対策も不足
していた。
②上記課題に対応したが、対応が後手に
まわった。
③製品の改良を行うも2006年3月期まで
に業績を挽回するに至らず。

①製品の改良を行い、性能面では既
に競合会社を上回っているとの認識。
②65nmノードの量産マスクへの対
応、次世代の45nmノードの性能を強
化する。

今後の課題と対応(1)

(2) 営業面での現状認識及び今後の対応

現状認識	今後の対応
①お客様の技術的ニーズに対する理解不足。	①営業及び技術部門の連携強化。 →営業・技術による定期的ミーティングの開催 ②技術研修の更なる充実を図る。
②当社製品の優位性への説明不足。	①プレゼンテーション能力の向上。 →外部の協力者を交えてのプレゼン資料の検討 ②デモにより当社製品の優位性を証明する。

今後の課題と対応(2)

2. 業績変動の極小化⇒事業構造の転換!

(1) DIS-05の早期売上計上

①現在の進捗状況

- ・主要なお客様へ売込み中。
- ・現在評価中であるが、概ね良い評価を得ているとの認識。
- ・新製品であるため、お客様のニーズを取り入れ製品に改良を加えていく予定。

②今後の見込み

- ・製品を改良し、今期下半期中にも売上に計上する計画。

今後の課題と対応(2)

(2) 新たなコンセプトの製品開発

① 事業コンセプト

- ・電子ビーム技術をコアとするもの。
- ・マスク・ウエハに加え、新たな事業対象も追加する。

② 進捗状況

- ・新たな製品開発を検討中。

業績見通しの開示について

- 本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき予測したものであり、下記のリスク等や不確定要因等を含んだものであることをご了承願います。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に株式会社ホロンが将来の見直しを見直すとは限りません。
- 当社の製品については国内販売については検収基準、海外については船積基準ですが、新製品等の一部については検収基準により売上を計上しております。本資料における売上見込みは現時点での進捗見込みに基づくものであり、検収が遅れるリスクを含んでおります。
- また、当社を取り巻く経済情勢、株式市場動向等により、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。